

果樹類

農薬取締法上、「小粒核果類」は果実を収穫するもので、「あんず」「うめ」「すもも」および「作物群内の作物間での交配種」が含まれるが、もも類（もも、ネクタリン）およびおうとう（さくらんぼ）は含まれない。

黒星病

留意事項

- 1 SDHI剤<<7>>、QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M4> 【小粒核果類 800~1000倍 21日/3回】
 - ・ [ベルコート水和剤](#) <M7> 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日/3回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフエットフロアブル](#) <<7>> 【小粒核果類 2000倍 前日/3回】
 - ・ [ネクスターフロアブル](#) <<7>> 【小粒核果類 1500倍 前日/3回】
 - ・ [スクレアフロアブル](#) <<11>> 【小粒核果類(除うめ) 2000~3000倍 前日/3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【小粒核果類 1000~1500倍 21日/3回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【小粒核果類(除うめ) 2000倍 前日/3回】

灰星病

留意事項

- 1 SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフエットフロアブル](#) <<7>> 【小粒核果類 2000倍 前日/3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【小粒核果類 1000~1500倍 21日/3回】
 - ・ [サンリット水和剤](#) <3> 【小粒核果類 2000倍 前日/3回】
 - ・ [オーシャインフロアブル](#) <3> 【小粒核果類(除うめ) 3000倍 前日/3回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【小粒核果類(除うめ) 2000倍 前日/3回】
 - ・ [ベルコートフロアブル](#) <M7> 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日/3回】

灰色かび病

防除方法

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベルコート水和剤](#) <M7> 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日/3回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーシャイン水和剤](#) <3> 【小粒核果類(除うめ) 3000倍 前日/3回】

斑点病

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オキシラン水和剤](#) <M1> <M4>
【ベリー類(除ブルーベリー) 600倍 収穫終了後～落葉期/3回】

うどんこ病

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [エコピタ液剤](#) <-> 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日/-】

かいよう病

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [マスタピース水和剤](#) <- (生)> 【小粒核果類 1000～2000倍 前日/-】
 - ・ [ムッシュボルドーDF](#) <M1> 【小粒核果類(除すもも) 500倍 葉芽発芽前/-】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スターナ水和剤](#) <31> 【小粒核果類(除すもも) 1000倍 7日/3回】

すす斑病

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M4> 【小粒核果類 800倍 21日/3回】
 - ・ [ベルコート水和剤](#) <M7> 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日/3回】

白紋羽病

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。
 - ・ [NCS](#) <->
【原液3～5ml/1穴 耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15～50cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆 植付前/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ [フロンサイドSC](#) <29>

【小粒核果類(除うめ) 500倍 50~100L/樹 土壌かん注
収穫後~開花前(収穫60日前)/1回】

紫紋羽病

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [NCS](#) <->

【原液3~5ml/1穴 耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15~50cmの穴を
あけて薬液を注入し、ビニール等で7~10日間被覆 植付前/1回】

切り口及び傷口のゆ合促進

防除方法

・ [トップジンMペースト](#) <1>

【果樹類(除もも、りんご、なし、かき、マルメロ、かりん、いちじく、かんきつ、
おうとう、小粒核果類、びわ、キウイフルーツ、ぶどう、くり、オリーブ) 原液
塗布 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後/3回】

環紋葉枯病

留意事項

1 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・ [ベルコート水和剤](#) <M7> 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日/3回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【小粒核果類 1000~1500倍 21日/3回】・ [ストロビードライフロアブル](#) <<11>>

【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 7日/3回】

葉炭疽病(はたんそびょう)

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【小粒核果類 1000~1500倍 21日/3回】

黒粒枝枯病

防除方法

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【小粒核果類 1000~1500倍 21日/3回】

越冬病害虫

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> <-> 【落葉果樹 7~40倍 発芽前/-】

カイガラムシ類

防除方法

1 下記の薬剤を散布する。

- ・ [トモノール](#) <UNM>

【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) カイガラムシ 16~24倍 -/-】または
【落葉果樹(除ぶどう) 12~14倍 -/-】

- ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>

【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) カイガラムシ 16~24倍 -/-】または
【落葉果樹(除ぶどう) 12~14倍 -/-】

- ・ [アタックオイル](#) <UNM> 【小粒核果類 50倍 発芽前/-】

- ・ [ハーベストオイル](#) <UNM> 【小粒核果類 50倍 発芽前/-】

- ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9B> 【小粒核果類 2000倍 前日/3回】

- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4A>

【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 前日/3回】

- ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7~10倍 発芽前/-】

- ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13>

【小粒核果類 ウメシロカイガラムシ 2000倍 前日/2回】

カメムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4A>

【小粒核果類 2000倍 前日/3回】

アブラムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [エコピタ液剤](#) <-> 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日/-】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—果樹類—

- ・ [オレート液剤](#) <—> 【果樹類(なしを除く) 100倍 発生初期～前日／—】
- ・ [粘着くん水和剤](#) <—> 【果樹類(除かんきつ) 500倍 前日／—】
- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A>
【小粒核果類 2000倍 前日／3回】
- ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) <4 A> 【小粒核果類(除うめ) 2000倍 7日／2回】
- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) **劇** <4 A>
【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9 B> 【小粒核果類 2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [ウララDF](#) <2 9> 【小粒核果類 2000～4000倍 7日／2回】

モモハモグリガ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

- ・ [コンフューザーMM](#)

【100～120本／10a(55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

ハマキムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <1 1 A> 【1000倍 発生初期(収穫前日)／—】
- ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <1 1 A> 【2000倍 発生初期(収穫前日)／—】
- ・ [エスマルクDF](#) <1 1 A>
【果樹類(除りんご) 2000～3000倍 発生初期(収穫前日)／—】
- ・ [トアロー水和剤CT](#) <1 1 A>
【果樹類(除りんご) 500～1000倍 発生初期(収穫前日)／—】
- ・ [ダイアジノン水和剤34](#) **劇** <1 B>
【小粒核果類(除すもも) 1000～1500倍 21日／2回】

チャノコカクモンハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

- ・ [コンフューザーN](#)

【150～200本／10a(52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

- ・ [コンフューザーMM](#)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—果樹類—

【120本／10a(55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、
または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコン-N](#)

【100～150本／10a(54g／150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

チャハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザー-N](#)

【150～200本／10a(52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコン-N](#)

【100～150本／10a(54g／150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

ミダレカクモンハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザー-R](#)

【100～120本／10a(36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコン-N](#)

【100～150本／10a(54g／150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

リンゴコカクモンハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザー-N](#)

【150～200本／10a(52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザー-MM](#)

【100～120本／10a(55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、
または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザー-R](#)

【100～120本／10a(36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコン-N](#)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【100～150本／10a(54g／150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

リンゴモンハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【150～200本／10a(52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本／10a(36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコンーン](#)

【100～150本／10a(54g／150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

モモシンクイガ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【150～200本／10a(52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーMM](#)

【100～120本／10a(55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本／10a(36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

ナシヒメシンクイ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【50～200本／10a(52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーMM](#)

【100～120本／10a(55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本／10a(36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

シンクイムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [ダイアジノン水和剤34 劇](#) < 1 B > 【小粒核果類(除すもも) 1000倍 21日／2回】

・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A >

【小粒核果類 2000倍 前日／3回】

コスカシバ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [スカシバコンL](#)

【40～100本／10a(8g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け
設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ガットキラー乳剤](#) < 1 B >

【小粒核果類(除うめ、すもも) 100倍 樹幹部及び主枝に散布
休眠期(落葉後～萌芽前)／1回】

・ [フェニックスフロアブル](#) < 2 8 >

【小粒核果類(除うめ、すもも) 4000倍 前日／2回】

シャクトリムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [エスマルクDF](#) < 1 1 A > 【果樹類(除りんご) 2000倍 発生初期(収穫前日)／—】

・ [バイオマックスDF](#) < 1 1 A >

【果樹類(除りんご) 2000倍 発生初期(収穫前日)／—】

アメリカシロヒトリ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [ダイアジノン水和剤34 劇](#) < 1 B >

【小粒核果類(除すもも) 1000～1500倍 21日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ケムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期(収穫前日)／－】
 - ・ [エスマルクDF](#) <11A> 【果樹類(除りんご) 2000倍 発生初期(収穫前日)／－】
 - ・ [カスケード乳剤](#) <15> 【小粒核果類 2000～4000倍 14日／2回】
 - ・ [フェニックスフロアブル](#) <28>
 - 【小粒核果類(除うめ、すもも) 4000倍 前日／2回】

カミキリムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。
 - ・ [バイオリサ・カミキリ](#) <－>
 - 【1本／1樹 地際に近い主幹の分枝部分等に架ける 成虫発生初期／－】

キクイムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ガットキラー乳剤](#) <1B>
 - 【小粒核果類(除うめ、すもも) 100倍 樹幹から地際部へ散布
休眠期(落葉後～萌芽前)／1回】

ハダニ類

防除方法

- 1 下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN>
 - 【80～200倍 夏期／－】または
 - 【20～40倍 冬期／－】または
 - 【落葉果樹 7～40倍 発芽前／－】
 - ・ [スパイカルEX](#) <－(生)> 【2.4～12ml／樹(約48～240頭) 放飼 発生初期／－】
 - ・ [システムミヤコくん](#) <－(生)>
 - 【果樹類(施設栽培) 2～5パック／樹 放飼 発生直前～発生初期／－】
 - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【小粒核果類 1000倍 前日／1回】
 - ・ [スターマイトフロアブル](#) <25A> 【小粒核果類 2000倍 前日／1回】
 - ・ [ダニゲッターフロアブル](#) <23> 【小粒核果類 2000倍 前日／1回】
 - ・ [マイトコーネフロアブル](#) <20D> 【小粒核果類 1000～1500倍 3日／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—果樹類—

- ・ [トモノール](#) <UNM>
【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) ハダニ類及びその越冬卵 16~24倍 -/-】
- ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>
【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) ハダニ類及びその越冬卵 16~24倍 -/-】
- ・ [アカリタッチ乳剤](#) <-> 【果樹類(除りんご) 1000~3000倍 前日/-】
- ・ [エコピタ液剤](#) <-> 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日/-】
- ・ [粘着くん水中和剤](#) <-> 【果樹類(除かんきつ) 500倍 前日/-】
- ・ [コテツフロアブル 劇](#) <1 3> 【小粒核果類 オウトウハダニ 2000倍 前日/2回】
- ・ [ダニコングフロアブル](#) <2 5 B> 【小粒核果類 ナミハダニ 2000倍 前日/1回】

サビダニ類

防除方法

1 下記の薬剤を散布する。

- ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN>
【80~200倍 夏期/-】または
【20~40倍 冬期/-】
- ・ [トモノール](#) <UNM>
【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) サビダニ 16~24倍 -/-】
- ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>
【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) サビダニ 16~24倍 -/-】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。